大田原文化

第32号

大田原文化協会

令和5年度

目　次

一	ごあいさつ	大田原文化協会会長	田中　和夫　1
二	歴史民俗資料館	大田原市歴史民俗資料館学芸員	宮澤　友美　2
三	文芸部	大田原短歌会	野原登紀子　4
	短歌部門　今年度の雑感	大田原俳句会	中山　逍遥　6
	俳句部門　大田原俳句会	風の会	直筧　正美　9
	風の会	秋桜の会	森　加名恵　10
	秋桜の会	秋桜の会	上田　孝二　11
	俳句とフレイル予防	秋桜の会	江連　一典　11
	秋桜の会合同吟行会	美術部長	安達　信悟　12
四	美術部	大田原油絵クラブ	蜂巣　貞美　14
	第三十八回大田原文化協会美術展	みず絵会	瀧澤　年子　15
	令和五年度の大田原油絵クラブ	色紙水彩画	君島　真二　16
	水彩画を描くこと	書道	長嶋　石城　18
	『争いのない平和な世の中を』―人生一〇〇年―（芸術）	竹工芸	尾畑　美智　19
	文房四宝	華道	増子　梢風　19
	竹との出会いに感謝	茶道部	瀬尾　清子　20
	美術展、那須地区芸術祭に参加して	ステージ部門長	花柳喜乃治　21
	四年ぶりの茶会	大田原宝友会	蜂巣　貞美　22
五	茶道部	盆栽・園芸部長	平山　正彦　24
六	ステージ部	大田原市将棋愛好会	矢板　清勝　27
	ステージ部門活動報告書	大田原囲碁愛好会会長	郡司　敏夫　27
	宝生流謡曲（うたい）大田原宝友会　令和五年度のあゆみ		
七	盆栽園芸部		
	盆栽園芸部門		
八	囲碁将棋部		
	藤井　八冠		
	大田原囲碁愛好会		
九	文化協会事務局より	事　務　局	28
十	編集後記	広報部長	飯島　健司　29

題字　書家　酒井真沙　　表紙　文芸部「第三十四回黒羽芭蕉の里全国俳句大会」

ごあいさつ

大田原文化協会
会長　田中　和夫

令和六年は能登半島地震、羽田空港航空機衝突事故と、大変痛ましい災害・事故でスタートしました。まずはこれらの災害・事故でお亡くなりになった方々に心より哀悼の意を表し、被災された方々にお見舞いを申し上げます。また一日も早い復旧・復興をご祈念申し上げます。

◇　◇

昨年の十二月十五日（金）、栃木県公館において、第七十七回栃木県芸術祭の表彰式が行われました。

大田原市の方も数名、表彰を受けられましたが、なかなか一般の方には伝わらないと思いますので、ここであらためて紹介させて頂きます。

■俳句・文芸奨励賞
西塚とみ子
市村多眞美

■彫刻・芸術祭奨励賞
■音楽（器楽）・準芸術祭賞
石井和那

■民謡、民舞・準芸術祭賞
小藤ツネ子

■吟詠剣詩舞・準芸術祭賞
北部地区協議会
（大田原市を含む）

このように各部門で活躍している市民がいることを、ご承知おきください。

◇　◇

私の所属するステージ部門は存続の危機に見舞われています。平成二十五年（２０１３年）には１４９名いた構成員が、令和五年（２０２３年）には66名と、十年で半分以下に減少してしまいました。

高齢化でやめていく方が増えたことに加え、新たに始める方が減少し、自力では組織を維持できなくなってきた結社が、次々と退会しています。

ステージ部門の大きな行事は、大田原市産業文化祭への出演と「歳末助け合い大田原市民芸能大会」の開催です。

昨年の大田原市産業文化祭においては、三十年の長きにわたり出演を重ねたことにより、感謝状を頂きました。

しかしながら来年度は、産業文化祭への出演も、「歳末助け合い大田原市民芸能大会」の開催も無理かもしれません。

大田原市総合文化会館が使えなくなってしまったことも、その一因といえるでしょう。

ステージ部門の立て直しが急務であり、私の最優先の仕事であると認識しております。

◇　◇

大田原市名誉市民の俳人、黒田杏子先生が、昨年の三月十三日にご逝去されました。

思い起こせば、令和二年二月十日に名誉市民への推挙式が行われ、筆者も同席させて頂きました。

俳句を始めたばかりの私にとってはまさに雲上の人でしたが、写真撮影に気軽に応じて頂きました。

「黒羽芭蕉の里全国俳句大会」において毎年、選者を務められ、また黒羽図書館にも２００３年から図書の寄贈を続けており、大田原市の文化振興に多大な貢献をされた方です。

黒羽の那珂川河畔にある「大田原市鮎の里公園（黒羽田町）」には先生の句碑が建っています。みなさんも訪ねてみてください。

鮎のぼる川父の川母の川
杏子忌が季語になってしまいます。残念でなりません。

黒田杏子先生と筆者

歴史民俗資料館

大田原市歴史民俗資料館
学芸員　宮澤　友美

皆様は、大田原市歴史民俗資料館（以下当館）をご存じでしょうか。湯津上の国道二九四号沿い、下侍塚古墳のすぐ近くにあります。大田原市には黒羽芭蕉の館、那須与一伝承館、なす風土記の丘湯津上資料館、そして当館と計四つの博物館施設がありますが、テーマが明確な他の三館と違い、どのような展示がされているのか、ご存じの方は少ないかもしれません。そこで、この場をお借りして、紹介したいと思います。

当館は昭和五十四年（一九七九）、湯津上村立歴史民俗資料館として開館しました。昭和四十五年（一九七〇）、「地方歴史民俗資料館補助要綱」が制定されると、文化庁は国庫補助事業として、地方の歴史民俗資料館建設を促しました。当館は栃木県内で、この国庫補助を受けて建設された最初の資料館です。

昭和三十年代から四十年代にかけて、江戸時代以前からの伝統を引き継ぐ生活様式から、電化製品や工業製品などを取り入れた現代の生活様式へと時代は大きく変化し、古くからの風俗習慣や、これらに用いられる道具等が使われなくなっていきました。

大田原市歴史民俗資料館　外観

さらに、経済的事情、生活様式の変化等により、旧家に保存されていた古文書等の貴重な資料も散逸するおそれがあったのです。

そして、村内には国宝那須国造碑や国指定史跡侍塚古墳をはじめ、数多くの遺跡がありました。そこから出土した考古資料も併せて保存展示することにより、私たちの生活の変遷を知り、児童・生徒に対しては、社会科の学習に役立てようと、当館は建設されました。開館当初は、民俗資料と考古資料を中心とした展示でした。

ちなみに考古資料は、平成四年（一九九二）、隣接地に栃木県立なす風土記の丘資料館・湯津上館が開館すると、そちらに移管されました。当館は民俗資料を中心に展示するようになったのです。

では、民俗資料（民俗文化財）とは、どのようなものなのでしょうか。

文化庁のホームページには、「民俗文化財とは衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋、その他の物件など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきた有形・無形の伝承で人々の生活の推移を示すものである。」とあります。いわゆる「普通の人々」がくらしの中で使用していた道具（農具や民具）や習慣など、その土地に根付いてきたもののことです。

さらに民俗資料は有形と無形に分けられます。有形は、風俗習慣・民俗芸能・民俗技術に用いられる衣類・道具・舞台などのことです。対して無形は、風俗習慣（年中行事など）・民俗芸能（獅子舞・神楽など）・民俗技術など、人々が生活の中で生み出し継承してきたもののことです。その中でも重要性に応じて、国・県・市の文化財とし

て指定や登録がされています（表1）。

もちろん指定や登録がされていなくても、私たちの「普段のくらし」を伝える貴重な資料であることに変わりません。農具や民具からは、人々が長い歴史の中で積み重ねてきた経験と知恵、そして地域の特性がうかがえます。

例えば農作業に使うクワ。耕作・畝立て・除草・収穫など、あらゆる場面で使われる重要な農具の一つです。機械化が進んだ現代においても、まだまだ現役で活躍しています。クワは地域によって柄の長さや角度、刃の部分の大きさなどが異なります。それは使用する土地の性質や使用目的に合わせて作られているからであり、それぞれの地域で最も効率良く作業ができる形状をしているのです。

文政五年（一八二二）に刊行された『農具便利論』（江戸時代の農具図鑑・農業技術書）には、全国各地で使用されているクワについて、寸法や重量などとともに絵入りで解説されています。また、「鍬は国々にて三里を隔てずして違ふものなり」と記されており、当時からクワには地域差があったことがうかがえます。

民俗資料は、歴史に名を残すことのない「普通の人々」の「普段のくらし」を伝えてくれます。さらに、資料そのものの情報（作りや素材、名称など）と、資料の背景にある情報（所有者や受け継がれた経緯など）があります。資料一つ一つは独立したモノでも、背景にある情報から繋がることがあります。そうした積み重ねによって、私たちのくらす地域の歴史がみえてくるのです。

大田原の民俗資料は、当館以外の場所にも収蔵されており、現在、その整理を進めているところです。

施設の老朽化や収蔵スペースの不足など、課題は山積しておりますが、地域の歴史を未来へ伝えていけるよう、貴重な民俗資料の保存には、ひとつひとつ丁寧に取り組んでいきたいと思います。

当館所蔵のクワ
この地域のクワの柄の角度は、鋭角であるのが特徴

有形民俗文化財			
県	指定	人面獣心の壁書	須賀川
市	指定	額絵馬	大田原神社
無形民俗文化財			
国	選択	大捻縄引	佐良土
県	指定	城鍬舞	上石上
		正浄寺の雅楽	佐久山
市	指定	那須神社の永代々神楽	南金丸
		天念仏	花園
		草刈唄	花園
		那須神社の獅子舞	南金丸
		八龍神社の太々神楽	羽田
		餅つき唄	福原
		温泉神社獅子舞	中野内
		温泉神社太々神楽	中野内
		大田原の盆踊り唄	
		八龍神社の天祭	羽田
		両郷磯上太々神楽	両郷
		黒羽餅つき唄	北滝
		大田原神社の屋台行事（大田原屋台まつり）	

表１　「大田原の民俗文化財」

短歌部門

今年度の雑感

大田原短歌会　野原　登紀子

今年は、異常気象で六月から十一月初旬まで、気温が例年より高く、さらに夏は猛暑で山の木々の紅葉は今一つ…といった感じです。

短歌部会では、月一回の学習会と年に二回ほど会場を変えて、吟遊会を行っています。

学習会では、出席者たちで互選した後、一首づつ鑑賞し合います。

一首の調べには、その作者の感動が裏付けられており、三十一文字に心の中に流れる思索が鋭く、また美しく表現されて、各自の生き方さえも見えてくるのです。

歌を詠むことは脳の活性化…習慣づけと単純に入会したのですが、実際自分の想いを言葉で伝えることの難しさを感じ、毎回力不足を感じます。

大先輩の教えの中に

「一日一首は作れるといいね」

とあり、励まされています。

自分の内面を素直に見つめ、生活の中で何を見、何を感じて生きてゆくかを客観視するのが短歌かな…と思います。

どんな状況下にあれ、時間は確実に過ぎていきますが一瞬をとらえ、自分を感じ、時に人間の生きた呼吸を感じるような（心の琴線に触れる）作品づくりを目指したいです。雑事に心を擦り減らすことなく、生活の中での発見や風土から得た豊かな詩情を見逃さず、感動を言葉にして、みずみずしく豊かに生活を楽しむ「自分磨き」ができればと思います。

門松もお飾りもなき正月を
　世は変わりしと独り見てゐる
吾を助け子供ら四人育てたる
　妻は卒寿を越えて逝きたり
歌一つ書いては涙流しゐる
　年寄り我と今はなるなり

阿久津　照靖

蝶々の友を連れてきて馬鈴薯の
　花盛りなる畑に遊ぶ
子を持たぬ淋しさ今日も語りゐる
　卒寿を越えし白髪の媼

角田　良子

大菩薩峠の路をさくさくと
　落ち葉を鳴らし彼の日登りし
朝の陽に葉の赤く映える花みずき
　その色なんと神さびて見ゆ
赤々と鮮やかに咲く曼殊沙華
　那須の山奥別天地なり
久々に会えたる友の白髪に
　一瞬たじろぎご無沙汰侘びる
うろこ雲朝日に照らされ銀色に
　龍のごとく大空を舞う

長嶋　禎子

悲しみは心細さに変わりつつ
　一人暮らしにまた年の暮れ
さまざまに形を変えて流れゆく
　雲を楽しみ一日過ごしぬ
度肝抜く雷一発鳴響き
　大き雨粒降り出しにけり
若きらは短歌ブームに花盛り
　心のままにスマホに読めり

うろこ雲重なり合ってびっしりと
　青空覆い夏遠ざける

石井　恵子

見上げれば桜芽膨らむ厳寒に
　今年の陽気に願いを託し
苔むせる庭に散りたるアケビの葉
　金色の葉二枚混じりたる
昼下がり小砂利の庭にネコ三匹
　戯れる姿に心和めり
松の枝に掛しブランコ風に揺れ
　孫の帰りはあといく日よ
老い猫も炬燵恋ゆるか霜の降る
　朝は吾に擦り寄りて来る

加藤　益子

我が庭の紫陽花の花梅雨浴びて
　青白ピンク色競い合う
花を愛で孫らを愛しむ亡き母の
　笑顔の写真憶い偲びぬ
入選の我の似顔絵展示され
　電車乗り継ぎやっと会えたね
稲の穂に羽休めゐる赤とんぼ
　実りの秋を楽しむごとく
サークルのランチの旨み楽しむも
　皆の笑顔の味わいうれし

野原　登紀子

初詣冷え入る参道賑わいて
　老若男女は平和を願う
ロウバイの小枝ゆすりてシジュウカラ
　虫喰らいつつおしゃべりをする
春待ちて恵みの雨に潤いて
　庭の石苔青みを増せり
シラサギの早瀬に終日魚を捕る
　寂しかないかひもじくないか
那須岳に雲湧き出でて末枯れたる
　木々に時雨降り掛かりくる

小野寺　尚武

痛ましき人の生い立ち聞きし我
　恵まれしことあらためて知る
初めての給与取る外孫が帰り際
　じいちゃんこれとケーキ置きゆく
両親とわが愛妻に感謝する
　七十九才のこの健康を
道を行く青年急に立ち止まり
　イヤホン外し鰯雲見る
夕茜子等は去りゆく公園の
　噴水の水音さみしく響く

鈴木　隆一

黙々と伏し目がちに香炉掃く
　婦人の背越しに夏の花咲く
旅行で震災遺構を見る児らが
　津波と同じ速さで走っている
煤けた人形潰れた漁船の写真
　フォルダから削除できずにいる
川岸に葛花の葉陰にあるを知る
　濁りし水面に散りし花弁で
暑き朝認知症の人の話
　ジグソーパズルのごとく聴く

藤沼　緋紗子

園児らのなぜどうしての質問に
　我が茶の湯も初心に戻りぬ
住む人の居らぬ家にも春が来て
　雪柳の花ふわりと咲けり
久々に電車に乗れば若者に
　席を譲られ戸惑い隠せず
朝二時に産まれし女(め)の子の小さき手
　希望握りてすやすや眠る
娘(こ)と孫と並んで寝めるひとときの
　小さな幸せ見る昼さがり

礒　セツ

菜の花の風を吸い込み鯉幟
　那須の大空狭しと泳ぐ
連休も終わり一家が帰りゆき
　静かな夜の食事に戻る
あのほらと名前出てこぬ会話する
　声高らかに笑いで終わる
嫁ぎ来て七十二年山茶花は
　古木となりて新芽輝く
猛暑日と乾燥つづく気象には
　怯えながらも余生を生きる

（二〇二三年十一月逝去）

俳句部門

1．大田原俳句会　　中山　逍遙

◎第三十四回芭蕉の里全国俳句大会

自由題の部

山下 知津子　選　特選
　葦芽ぐむ正造翁の分骨地　飯島　健司

席題の部

中原 道夫　選　推選
　心あらば見えるものなり夏の蝶　飯島　健司

◎第七十五回那須地区芸術祭俳句大会

十月八日（日）三島公民館にて開催

自由題の部

地区選者　入選　五位
　夫婦蟻一匹に遊ばれて　山田　勝美

席題の部　入選　二位
　とんぼうの小さき命とすれ違ふ　高宮　昤子

七位
　古民家に釜飯焦し秋惜しむ　久保田晋一

九位
　那須山の秋を惜しむや裾野里　中山　逍遙

十位
　ハモニカの音符の乱れ蜻蛉飛ぶ　福田　節子

●四　季　詠（今年の句会報より）

月一回参加者投句と欠席者投句を合わせて句会を行っています。

新　年

朗々と翁の気概謡初め　圭　子
鼻先の揃うトラック淑気満つ　節　子
初句会一句は望郷津軽の句　忠　利
薺打つ音はワルツの香して　逍　遙

春

さくら咲き小さき社の華やぎぬ　かつ子
花一枝折って手向ける地蔵尊　勝　美
畑打の祖母に手を振るランドセル　泉　江
卒塔婆の軽き落とすや涅槃西風　悟　郎

夏

国宝の寺の育てる蟻地獄　健　司
母逝きぬ家ぽつつりと梅雨の底　小来川
語らずの幸せもあり枇杷の花　昤　子
緑陰といふにぎりめし食ふところ樹　人

秋

この先は好きな事のみ吾亦紅　和　子
ほほづきをならして母に会ひたき日　加名恵
立ち向かう最澄の書や秋灯下　晋　一

冬

三月やゆるゆる生きて傘寿なり　民　恵
冬田道近道として下校の子　まさ子
悴むや手にいとほしき白湯の椀　桂　川
傘寿なる夫の鳩笛文化の日　智香子

● 今年の句会報より

滝坂の道

中村　桂川

昔、滝坂の道を歩いた時の話です。

滝坂の道は、奈良市街から円成寺までの山道で、石仏や磨崖仏の多い所。春日山原生林の谷合の道を上がると、沢の対岸に磨崖仏の朝日観音を見ることができた。磨崖仏を前に手持ち弁当で一息つく。当時は人影も少なく、静寂の中での弁当だった。

沢音の流れに浸す缶ビール

少し上がると荒木又右衛門が試し切りをしたという伝説のある首切り地蔵がある。

山道をさらに上がったところに峠の茶屋がある。

木漏れ日の峠の茶屋に一夜酒

エネルギー補給に甘酒はありがたい。少し休み、木漏れ日の山道を円成寺へ。円成寺は当時訪ねる人も少なく、庭から宝物の仏像を見ることができた。庭はさほど人の手が入っておらず、それに親しみすら感じた。庭の記憶は、池と萩と芒。

うつり込む水面しずかに萩すすき

滝坂の道は剣豪が歩いた歴史ある道で、可能であればもう一度歩いてみたい道である。

雲巌寺を案内して

飯島　健司

埼玉に住む義兄の友人二人を、三月に雲巌寺に案内した。

元の会社の同僚で、一人は俳誌「鷹」の同人である。平日の午後で、境内には人はまばらである。椿は満開を過ぎていた。

山門をくぐり、芭蕉句碑の前に立った。「夏木立」の句と仏頂禅師の歌が併刻してあり、しかも苔が張り付いていて判読できない。事前の準備不足を悔いた。帰りは女坂を降りた。

雲巌寺帰路はつばきの女坂　健司
女坂地に張りつきて落ち椿　Z氏

ただの観光案内の私の句と、同人Z氏の句の差を思い知らされる一日となった。

なんでもない句でも

星　樹人

五月三日、画家で彫刻家の渡辺豊重さんが亡くなった。

九十一歳。長野オリンピックのモニュメントや横浜国際競技場の天井画なども制作した方だった。

那珂川町にアトリエがあり、実家に帰ったときなどにお邪魔すると、いつも笑顔で迎えてくれた。楽しい会話の時間。

会うたびに、こうした時間をいつまで持てるだろう、と思っていた。いつか来るとは知っていたが、本当に別れのときが来てしまった。

いつの日か牡丹散るとは知りしかど

今回の大田原句会にと投句したものを修正しました。なんでもない句でも、自分にとっては大切な句です。

春によせて

高宮　聆子

東京に住む曽孫は十歳の少女です。コロナ以来三年振りに会うのを楽しみにしておりました。那須塩原に午前九時三〇分、元気な姿にほっとした瞬間でした。そのまま千本松牧場へ、ソフトクリームを食べ、桜を見ながら乗馬とバンジージャンプに挑戦し、待ち時間を入れて一時間くらい過ごしました。

桜吹雪を満喫し、花びらが落ちるのを手ですくうのが楽しかったみたい。昼食を取り午後二時には自宅に帰り一休み。

「イチゴ狩り」をしてみたいとの申し出で、午後三時に現地到着‼まあ可愛いイチゴがレーンに実をつけておりました。

ハサミを使い一粒づつ口に運んで「おいしい」の連発でした。

午後四時三〇分自宅に帰宅、それから大田原温泉に・・・

午後六時に食事、あり合せの焼き魚と味噌汁でほっとしてたら午後八時三〇分の列車で東京に帰るとの申し出。私共はあわただしい一日を送ることになりました。

新幹線のお陰で時間の短縮は出来ましたが、こんなあっけない出会いと別れで良いものか非常に考えさせられた一日でありました。

心の病む戦争

鍋谷　まさ子

小学二年の夏終戦を迎えた。通っていた市野沢小学校は金丸飛行場（現在の福祉大周辺）と埼玉（元黒磯市）飛行場の経路の下だった。

二つの飛行場の間を日本のかアメリカのB-29か分からないが時々飛んでいた。

空襲警報が出ると急いで下校させられた。ある時私を目がけたように飛行機が飛んできた。急いで林の中にかけこみ難を逃れた。このような事が時々あった。

八十年過ぎた今でも時々飛行機に追いかけられる夢をみる。

小さい時の体験は消えることがない。

今ウクライナでの戦いを聞くと心が痛む。早く終結することを願っている。

尉鶲（じょうびたき）

豊島　悟郎

毎年立冬の頃に飛来する尉鶲を心待ちにしている。小形でスズメぐらい。野原・田・畑でよく見られる。黒い翼に白斑があるので俗に紋付鳥（もんつきどり）とも。また、人を怖れないのでバカビタキとも呼ばれる。ヒッヒッカツカツと小さく鳴き、昆虫・クモ類・草木の実を食べる。

ある時、垣根の下の草取り最中すぐ近くの小枝に止まり、目が合っても驚かず。また、鍬を休めた一服の間に柄先に止まっている様など、まさにバカビタキ。また、春の渡り時期のころ近くに来て小声でほかの鳥の鳴き真似なのか、ぐずり鳴きなのか変わった泣き方を聞かせてくれた。とてもかわいい鳥である。

好物のウメモドキの実を沢山生らせて待つも、今年はあまり姿を見せず寂しい次第である。

一服の鍬の柄先に尉鶲

2. 風の会　　直篤　正美

● 活動趣旨

私たちの暮らしは四季の推移と深く関わっています。移りゆく季節の中で様々な思いが自然なかたちで私たちに訪れます。ふとした発見、驚き、喜び、違和感、そのように望まずとも無理なく去来する心情です。

そうした思いに言葉は目に見える「形」を与えてくれます。加えて他の方々に伝える「働き」を持たせ、そこに詩を吹き込むなら、俳句という文芸が表れます。

俳句への向き合い方は人様々ですが、句会は互いの俳句を理解し評価し合う場です。四季の移り変わりの中でそれぞれの体験と実感の裏付けのある俳句の表現はまたそれぞれに異なり、句会は共感、驚き、失意、喜びなど一句の世界を共有できる場であり時間でもあります。季節の推移と言葉そして俳句。

「風の会」は、そうした互いの俳句に向き合い高め合う場を心掛ける一方、それぞれの思いを俳句を介して共感できる時間を持ちたいと考えています。

しかし、実感と言葉を自分の中で合致させるために、またそのことを伝えるためには、言葉による表現上の技術が求められます。季節の中の言葉に気付き、思いを託し、思いを形にする技術を探す。句会はそうした場と時間であり、句会「風の会」はそのようにありたいと、まずはお知らせいたしたいと思います。

● 活動報告

生涯学習センターにおいて、毎月第二および第四水曜日に俳句を学ぶ自主講座句会として実施しています。現在会員は十四名で、時折り俳句講座あるいは設問形式の俳句トレーニングなどを交えながら、俳句の時間を共有しています。

コロナ禍も収まりはじめており、季節季節の吟行を織り交ぜることも含め、それぞれの感じる俳句作りを楽しんでいこうと考えています。

● 会員近詠（令和五年の句会から）

団栗の落花しきりや里の夕　　きみえ
城址いま色なき風の遊び場に　　いたかつ子
蒼天や脚立の動くりんご園　　かほる
木犀の風に乗り来る坂の道　　順子
青空や棘のにらみに柚子光る　　水葉
ききながす術も身につけ花芒　　律
笑み一杯バケツ一杯潮干狩り　　雅芳
間引き菜の光はらはら水を編み　　ひで子
白壁の蟷螂頭のみ動く　　比呂
木の実落つ芭蕉と曽良は三の丸　　未季
てっぺんを母に二さじかき氷　　青蛾
唐辛子軒に吊るされ炎めく　　正美
まばたきの冷たさ涙目のまつげ

挿絵４枚　みず絵会　瀧澤年子画

3. 秋桜の会　　森　加名恵

二〇二二年度二十七名で出発した句会でしたが、残念なことに休会者や他界された方もおられて、一時どうなる事かと不安を抱えていましたが、コロナも落ちつきシルバー大学校北校俳句部の皆さんが卒業と同時に加入して下さったので、現在三十名で活動しています。

どうしても高齢者の集まりなので退会はやむを得ないと思いつつもみんなが愉しく出掛けられる句会にしなくてはと、俳人協会評議員の太田土男氏をお招きして吟行会を計画しました。また、参加できない人を見越して、新しい部員の顔合わせをかねて、吟行会前の十月に合同句会を開き自己紹介をし、盛会裡に終わりました。

我々の年代はどうしても家に居ると塞ぎがちになります。どんどん外に出てみんなとおしゃべりをし、俳句で脳を活性化して楽しく社会参加をしようと考えています。

俳句に興味のある方を募集しています。

●　秋桜の会　合同句会　（十・十一月作品）

満月や遍く星を従へて　　幹　子
毒茸蹴飛ばして行く峠道　　一　典
犬抱けば猫の擦り寄る秋日かな　　恵　子
秋の夜や母の遺しし日記帳　　ひろみ
在りし日のアルバム綴る秋の声　　耕　里
秋蝶の駐車場にて今日も待つ　　さとみ
子に伝へし先祖の話良夜かな　　浩　二
月の道二人眺むる旅の宿　　純　子
秋麗手つなぐ双体道祖神　　節　子
大花野夫は先へと往きにけり　　絹　女
外つ国の兵士も月を眺めをり　　逍　遥
冬晴れや後を託して憂ひなき　　富　子
もろもろの事は忘れて月見酒　　弥　生
稲架の列続くところに曼珠沙華　　佳　子
全快の友より便り秋涼し　　清
新米を供へ遺影の笑顔満つ　　ゆきえ
足下の野菊に風のやさしけれ　　草　秋
奥山や笹に白露の便りかな　　明　美
名月を仰ぐ黒羽能舞台　　晋　一
金木犀の匂ひほのかに里の道　　佐くら
豆を挽く父の鼻歌秋の朝　　からぬ
縁側に五本の芒月丸し　　敏　子
名月を盃に満たして船に酌む　　茂　雄
芒満つ夕映えの中金の波　　八重子
学舎の子等の窓辺に石蕗の花　　美　子
お陽様に聴きし食べ頃吊し柿　　隆
霧晴れて楓の赤の目覚めけり　　ふみ子
冬の蜂病に耐える友に似て　　義　郎
絵心のありて皿盛る秋果かな　　加名恵

●　令和五年度俳句大会の成果

◎黒羽芭蕉の里全国俳句大会

自由題の部

中原 道夫　選　佳作
去年今年三面鏡に過去未来　　森　加名恵
山下 知津子　選　佳作
炎暑なる九回裏やスクイズす　　浅野　茂雄
棄てられし葱が葉先を擡げけり　　山之内　清
平手 ふじえ　選　佳作
雛めぐり街中の色華やいで　　天沼　明美
謄本に母の百年豆の花　　金子　枯野

席題の部

中原 道夫　選　特選
からたちを褥に今し蝶生るる　　金子　枯野
中原 道夫　選　入選
夏の蝶死骸となりて触れにけり　　江連　一典
山下 知津子　選　入選　黒岩 徳将　選　入選
青条鳳蝶群れて離島の海の色　　森　加名恵
平手 ふじえ　選　秀逸
狂ほしく縺れ深空へ夏の蝶　　山之内　清
平手 ふじえ　選　入選
夏の蝶妖精のごと庭に舞ふ　　美　子

◎柳まつり全国俳句大会
飯尾 婦美代　選　入選
草野球木かげのやかん汗をかき　　野口ふみ子
速水 峰邨　選　入選
寄せ植ゑの出来比べ合ふ冬うらら　　江連　一典
星田 一草　選　入選
風邪の熱ひたひ合はせに母の顔　　森　加名恵

◎第七十五回那須地区芸術祭俳句大会　入選
日の匂ひつけし子の髪洗ひけり　　森　加名恵
ねぶた引く人のうねりと地のうねり　　伊藤　綾子
弦音を一つ残して秋の空　　浅野　茂男
一滴も余さずと注ぐ新茶かな　　山之内　清

俳句とフレイル予防

秋桜の会　上田　孝二

最近高齢者に対する健康づくりとして、フレイル予防の取り組みがいろいろなところで行われています。フレイルとは、加齢にともない心身の機能が低下した状態をいいます。

フレイル予防は、栄養＋口腔、運動、社会参加の３つを行う事が大事と言われていますが、特に大事なことは社会参加です。

社会参加とは、人と交流をし地域活動などに参加することで、人と人との繋がりを大切にしていくことです。よって、私も秋桜の会に参加し俳句の勉強に取り組んでいます。

句会に参加している皆さんの前向きで真摯な取り組みに接し、皆さんとのコミュニケーションを行うことで、フレイル予防に役立っているのではないかと思っているからです。

悩みは?才能なしの迷句ばかりで、なかなか名句が生まれません。勉強と努力が不足しています。反省！

秋桜の会合同吟行会

秋桜の会　江連　一典

十月二十日に俳人協会評議員（草笛名誉会長・百鳥同人）太田土男先生をお迎えして秋桜の会合同吟行会が開催されました。

地元の「蜩（ひぐらし）の会」の百鳥会員にも参加頂き、総勢二十名で秋の那須野が原公園、那須疏水を散策致しました。

句会場は那須塩原市のハロープラザ視聴覚室。それぞれ五句投句の後で五句選び、その中から特選をひとつ選びました。最後に太田先生から講評を頂き、印象に残ったことは、字面だけでなく物語を作って詠む事、言いたいことを六割詠み、更に句会では先生の句を選ぶ力を高める事などです。仲間同士で佳い句を選び先生から選ばれ、そして先生の句を選ぶのが理想だと聞きました。

和やかな雰囲気の中、昼食の栗ご飯を美味しく頂きました。そして、この吟行会が我々にとって俳句を作って行く上で大変有意義であったと確信しました。

秋桜の会吟行会　令和５年１０月２０日（金）

那須野が原公園・那須疎水散策（太田土男先生をお迎えして）

第三十八回
大田原文化協会美術展
「小学生会員の作品が絶賛‼」

美術部長　安達　信悟

第三十八回大田原文化協会主催の美術展を十一月十日から十二日の三日間、那須野が原ハーモニーホールの第一・第二ギャラリー・スロープにおいて、美術部の会員一四七名（前年比一名増）の力作、一七一点（前年比十一点減）の一斉展示を開催しました。展示内容は従来同様、多くの分野のグループ、教室、個別で創作活動された方々の作品を多数出展していただきました。

（出品数推移参照）

今回、【洋画】で小学一年生と六年生の児童さんの作品を展示していただき、来場者から「素晴らしい、感動した」と言う絶賛の声を沢山いただきました。

また、【色鉛筆画】【切り絵】【版画】の展示点数は少ないですが、好評をいただきました。

来場者は三日間で今年も五百名弱と多くの方に大田原の芸術作品を鑑賞していただきました。

アンケートでは初めての来場者が三十パーセントと前年より微増しましたが、来場者の八十パーセントが六十歳以上の高齢者であり、児童や学生さん、現役世代の方に、芸術・文化への参加を啓発する必要があると思いました。

寄せられたコメントでは「素晴らしい作品、楽しく、久しぶりに心が癒された、感動した、毎年期待している」など、嬉しいお声を多数いただきました。分野別では「【トールペイント】の高度な技法に感嘆した。綺麗！可愛い！【写真】絵のよう！使用カメラ・レンズ・撮影場所等が分かると良い。【華道】綺麗で自分もやってみたい。【竹工芸】【陶芸】繊細で力作ぞろい。自分も挑戦したい。【書道】文字情報の説明書きがあると更に楽しくなる。【その他】水墨画、染色があるともっと良い。全体的に会場が暗い」等々の意見を多数いただきました。

ご協力ありがとうございました。次回以降に参考にさせて戴きます。新しい分野の参加を歓迎致します。

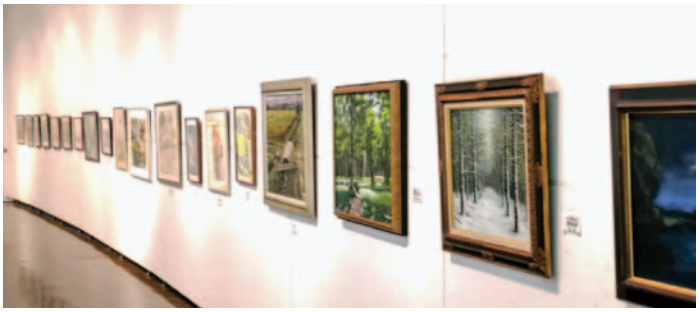
令和六年の第三十九回文化協会美術展は十一月中旬に三日間、那須野が原ハーモニーホールで開催予定です。より多くの作品と多数の参加をお願い致します。

最後に、美術展の開催にあたり市の文化振興課の皆様には大変お世話になり、また、美術部役員の方のご協力に感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

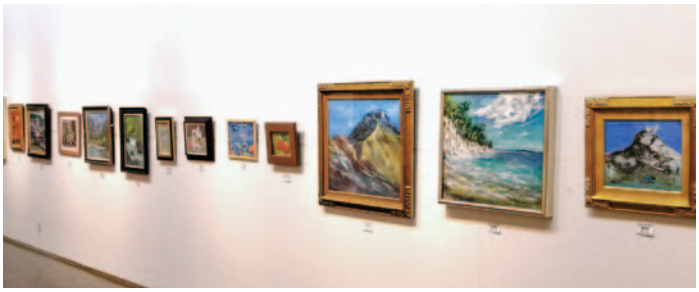
ありがとうございました。

大田原文化協会　美術展の出品数推移

部門	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回	第38回
洋画	20	29	25	31	35	27
日本画	2	2	1	2	8	7
水彩画	9	17	9	15	21	19
写真	10	10	10	10	12	16
華道	29	22	12	17	19	15
色紙画	15	16	16	17	15	12
陶芸	20	16	20	20	23	23
書道	17	14	15	15	13	14
竹工芸	11	13	15	13	13	13
工芸	5	10	7			
彫刻	5	6	4	10	8	9
版画・切り絵・鉛筆画		2	1	3	4	6
アレンジメントフラワー	9					
トールペイント		10		9	11	10
会員展示	143	157	135	162	182	171
招待展示	19	18	0	0	0	0
合計	162	175	135	162	182	171



夢



竹工芸

令和五年度の大田原油絵クラブ

大田原油絵クラブ　蜂巣　貞美

県立美術館で、県芸術祭美術展が九月二十二日から十月五日まで開催され、瀧野洋子と蜂巣貞美が入選しました。

十月十四、十五日の西地区公民館での西地区文化祭には六名の会員で十点の作品を出展しました。

十月二十日から二十二日までのハーモニーホールでの那須地区芸術祭には、山川喜世三が一〇〇号、蜂巣貞美が八〇号で出展しました。

十一月十日から十二日、ハーモニーホールで大田原文化協会美術展が行われました。八名の会員が出展いたしました。

十月下旬から十一月二十六日までの日展に私共の講師、齋藤勝美先生が六年連続入選を果たしました。都合十一回目の入選です。

十二月十八日は片岡屋で会員と家族を含めて十四名で忘年会を賑やかに楽しく行いました。

以上の他、四月から十二月までは第一、第三月曜日、一月から三月までは第二月曜日、五時から九時までの油絵教室を開いています。

今年度は新しく小学一年生一名、六年生一名、女性四名、男性四名の十名で仲良く勉強することが出来た一年間でした。これからも大田原の文化向上と地域活性化のために協力し合って勉強と親睦を重ねていく所存です。

「ジンベイ鮫」　藤田実桜里（小学1年生）

「犬張子」　後藤皐（小学６年生）

県展入選作品　瀧野洋子　Ｆ80号

県展入選作品　蜂巣貞美　Ｆ80号

日展入選作品　齋藤勝美　Ｆ100号

「落ち葉」　岩上知子　Ｆ４号

「穂高岳と梓川」　山川喜世三　Ｆ10号

水彩画を描くこと

みず絵会　瀧澤　年子

今年は暑い日々が続きました。十月には、那須地区芸術祭、西地区公民館文化祭、十一月に大田原文化協会美術展と今年の一連の行事が終わり、ホッとしています。

みず絵会は第二、第四月曜日に総合文化会館で午後一時半から三時半まで活動しています。

みず絵会も高齢となり、人数も少なくなりましたが、春と秋には写生もしています。

三月には千本松の那須野が原公園の緑の相談所で、毎年作品展を開催しています。

先輩たちの残したみず絵会を令和六年度も頑張りたいと思っています。

『争いのない平和な世の中を』

―人生一〇〇年―（芸術）

色紙水彩画　君島　真二

今までの「コロナ禍」は成りを潜めて以前のような本来の状態に戻りつつある。

コロナ禍後、画友達が高齢化による病変に悩まされ画友達の減少に脅かされたと思われる。

そのため、「色紙水彩画教室」を解散して個人やグループ等で残留する事を考えている。

解散の結論等の如何は二〇二四年（令和六年）の三月末に決める予定である。二〇名程の画友が現在十五名に減り、また、病変・入院等の予備兵もあり遺憾千万でもある。

しかし、画友達のやる気もあるので確実な平和への願望等の為頑張りたいものでもある。

さて、実技・鑑賞等を述べてみることにする。

四月四日に桜の花が咲き始めていた美原公園内での写生会は生き生きして楽しく描画した。

六月二十日は黒羽観光やなで鮎の写生を行い、昼食はくらしの館でそば・うどんを食べ猛暑であったが、五名で楽しく過ごした。

七月四日から八月八日まで「白河信用金庫大田原ロビー展」で作品を出品し、大好評であった。

九月二十日は那須塩原市関谷の「箒川上流大写生会」で楽しく明るく描画し自信をつけた素晴らしい日で、昼は美味のレストランで食事をした。写生はいいね。

令和５（2023）年度「絵画教室」“カリキュラム”学習予定表　赤堀自治公民館

自主学習日　毎月2回　火曜日（午後1：30～3：30）
○コロナ禍により中止、延期他あり
○カリキュラム内容変更もある

会場　大田原市赤堀自治公民館内　（℡23-1935）

月	日	当番用紙	学習題・会場etc	月	日	当番用紙	学習題・会場etc
4	4	①ⒶⒷ	写生　10：00～12：00 市内美原公園 ☂自由画　13：30～15：30	10	10	①ⒶⒷ	自由画（作品展に備えて） 西地区文化祭1点／人 ※10月14日、15日（公民館）
	18	②ⒶⒷ	春の草花、野菜、果物etc		24	②Ⓐ	自由画（市文化協会美術展に備えて） 締切日10/24まで
5	2	③ⒶⒷ	自由画（前の続きでも良い）	11	14	③Ⓐ	自由画（ハーモニーホール美術展） 準備11/9 美術展※11/10～11/12
	16	④ⒶⒷ	規格画（一つの題材をグループで描く）茶器、コーヒー用具他		28	④ⒶⒷ	デッサン（肖像画、人物、動物他） ※26日～28日那須地区芸術祭
6	6	①ⒶⒷ	自由画（色鉛筆、パステル、墨絵画他）	12	12	①ⒶⒷ	自由画
	20	②ⒶⒷ	写生　9：00～15：00 黒羽簗 ☂自由画　13：30～15：30		26	②Ⓐ	自由画　干支の絵（辰年）、他
7	4	③ⒶⒷ	自由画（白河信金作品展） （7/4～8/18まで予定）	令和6年	16	③Ⓐ	自由画　干支の絵（辰年）
	18	④ⒶⒷ	自由画　日用品、食物、コップ、他	1	30	④Ⓐ	自由画　干支の絵（辰年）、他 ※トコトコ展　2/1～2/29
8	8	①Ⓐ	自由画（参考本を見て描いてもよい・模写も良い）	2	6	①ⒶⒷ	自由画 トコトコ飾りつけは2/1　10：00～
	22	②ⒶⒷ	自由画		20	②ⒶⒷ	自由画 （全員で一つの物を描く予定） トコトコ展片付け2/29　15：00～
9	20	③ⒶⒷ	写生　9：00～15：00 ☂自由画　13：30～15：30	3	12	③ⒶⒷ	写生（公民館周辺） ☂自由画　13：30～15：30
	26	④ⒶⒷ	自由画		26	④ⒶⒷ	自由画（反省、次年度について） 創造画、抽象画、デザイン画他

※用紙　Ⓐ色紙　ⒷF6～F10

箒川上流大写生会　９月20日

黒羽観光やな写生会　６月20日

箒川上流大写生会　９月20日

色紙水彩画の講師

十月十四日、十五日は大田原西地区文化祭で五名の出品だったが多くの鑑賞客から好評をいただき意欲がわいた。

十一月十日から十二日まで大田原文化協会美術展がハーモニーホールで開催され多数の人が訪れ大好評であった。われら画友達の作品も多く素晴らしいとの声が多かった。準備・片付け等も献身で良くやり遂げたことは立派である。

また、菊地氏は十一日に当番として重責を果たした。

十一月二十六日から二十八日まで那須地区芸術祭が美術展と同館で開催された。去年に続き五点程出品して、自信をつけたようだ。

二〇二四年（令和六年）二月一日より二月二十九日までの一か月間、色紙水彩画一人二点（辰年と自由画）の約三十点を出品した。我ら画友達のメインイベントとフィナーレである作品だ。トコトコ大田原一階のショーケース内展示には、多くの人々が鑑賞してくれたようである。

なお、天に昇る水怪と平和への強い守護神の辰（龍）年に幸いあれ!!と祈るものとする。

大田原西地区文化祭　10月14日、15日

文化協会美術展有志　11月10日～12日

2024年〈辰年〉

文房四宝

書道　長嶋　石城

筆・墨・紙・硯を「文房四宝」と呼んでいる。ここでは、墨を中心に書き進めることにする。硯は墨をする（磨墨）ためになくてはならないものであったが、昨今では簡便な墨液が出回っており、固形の墨は売れなくなったと業者は嘆く。

墨液を使うなら必ずしも硯を必要としないが、磨墨をしながら心を落ちつかせる、構想を練る、気持ちを高めるなど大切な時間なのである。

同じ墨なのに淡墨の美しさの違いに遭遇したことがある。先輩は端渓硯を使ったという。硯の重要さを実感し、早速端渓を買い求めた。

墨は煤（すす）と膠（にかわ）と香料を原料としている。煤は水に浮くので、膠が煤と水を混ぜ合わせる役目をしている。長く放置すると臭くなる。膠の変質した匂いである。

菜種油など植物油を原料とした油煙墨と松の小枝や皮を燃やした煤の松煙墨がある。薄めると油煙は茶系、松煙は青（グレー）系の色を呈する。

薄墨と言わずに淡墨と呼んでいる。その魅力にひかれて長年取り組んできたが、実に奥が深い。例えば十の字を書くと、交叉する部分に、先に書いた横の線が後から書いた縦の線の上に浮き上がったように見えるという不思議な現象が起こる。縦の上に横が乗っている。濃墨では見られない立体的な姿である。

ある時、前日にすった墨を見たら、何と水と煤が分離していた。上水を捨てて沈殿している何かどろどろとした液体で書いた作品を先生に見せたら、大変なお叱りを受けた。実は先生が下さった墨なのである。赤味を出すために顔料のベニガラを混ぜたもので、これは宿墨では使えないことを悟った貴重な経験である。青墨にも顔料を使用していると思われるものがある。メーカーがユーザーの要望に応えたものであろう。

墨色は紙質によって異なる。淡墨はことにそうである。墨と紙との相性がよくないと良い作品は生まれない。そこに筆の長短・柔剛が大きくかかわってくる。私たち書家は文房四宝によって生かされているのである。

竹との出会いに感謝

竹工芸　尾畑　美智

竹芸に出会って十年と少しになります。

パリッ、シャカ、シャカッ・・真っ直ぐな竹片を割って細ヒゴにする時の音が清々しく心が癒されます。

また、編みに入り、一周終わった時、ピタッと初めの編みにつながった時の爽快感は、難解なジグソーパズルを解いた時のようで格別です。

こんな竹の魔力に魅せられて、「細々と粛々と」を念頭に取り組んで参りました。

過日、師の八木澤正先生から、こんな話をお聞きしました。

「5対5の法則」

1と9、2と8・・というように和が10になる2数のかけ算をしていくと、5と5の積が一番大きくなる・・・この時の前者の5が技術、後者の5が発想。

この2つのバランスがとれた時、良い作品が生まれるというものです。

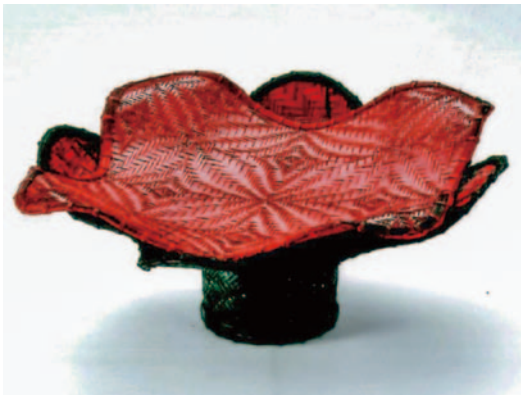
そして、この時、実はもう一つ人間の力が及ばないような力が加わることがあるというのです。本当に良い作品が出来る時はこの3つがうまく交差する時とのことでした。

私は、このお話を聞いて、言葉では言いあらわせないけれど何かストンと腑に落ちるものを感じました。

いつか、5の力量を持った上で自分なりの5の発想と工夫をして竹の神様にそっと寄り添っていただけるような作品が出来ると良いのですが。

そして、竹との出会いはもちろんのこと、共に竹芸に関わる皆様との出会いに感謝しつつ、「竹の里　大田原」の一員として出来ることに精一杯取り組んでいきたいと思います。

第24回全国竹芸展 出品作品
紅陽花（２Wayの盛篭）



第25回全国竹芸展　出品作品
花篭　『円舞』

美術展、那須地区芸術祭に参加して

華道　増子　梢風

昨年までの三年間は新型コロナウイルスとのたたかいで暮れてしまいましたが、今年は那須地区芸術祭と大田原文化協会美術展に参加することが出来ました。

那須地区芸術祭は二十一名、美術展には十五名出展していただきました。今年は花材名を記入しましたので来場者に大変喜ばれました。

また、大変うれしい出会いもありました。以前、文化振興課に在籍していた職員が来場してくださいました。

文化振興課の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

四年ぶりの茶会

茶道部　瀬尾　清子

新型コロナウイルス感染症の影響で、四年ぶりに大田原市黒羽・川西地区公民館で開くことができました。

茶券印刷時には、不安もありましたが、やるしかないと開催にむけて準備を始めました。

でも茶会から感染者が出たらどうしよう、お菓子を食べ、お茶を飲むのですから。

席主の先生方も気を遣ってくださり、茶碗は除菌シートでふき、熱湯につけてからふきとりお茶を出すようにしました。

四年ぶりとあって、お客様も大勢足を運んでくださり大盛況でした。

ステージ部門活動報告書

ステージ部門長　花柳　喜乃治

今年も十二月三日（日）第六十回歳末助けあい市民芸能大会を開催いたしました。今年は、昨年より使用が出来なくなってしまいました大田原市総合文化会館に代わり、那須野が原ハーモニーホール小ホールにて開催し、吟詠・剣詩舞・日本舞踊・新舞踊・フォークダンスなどの出演者が日頃の練習の成果を発表する事が出来ました。冒頭のとおり今年は市民芸能大会も六十回を迎える事が出来ました。諸先輩より受け取ったバトンを今日まで継続し還暦を迎える事が出来ましたこと、御礼申し上げます。当日は、出演者とともにご来場のお客様にも楽しんでいただけたことと思います。大田原市の文化芸能がなお一層の盛り上がる事をご祈念致します。

NO	種目	曲目	出演者	会名
1	舞踊	長唄　雛鶴三番叟	花柳　福乃治 高戸わかな事 花柳　喜乃若	喜乃治会
2	詩舞	敦盛哀歌	田中　風月 藤田　晴月 高瀬　蒼月	遊月流 遊月会
3	舞踊	お蔦	渡部　秀子	泉流和富会
4	剣詩舞	舟中子規を聞く	直井　優奈	遊月流吟舞会 嘉月会
5	郷土芸能	大田原小唄	郷土芸能を楽しむ会	郷土芸能を楽しむ会
6	舞踊	那須の雨	鈴木　圭子	泉流和富会
7	舞踊	常磐津　屋敷娘	山中　美智代	喜乃治会
8	フォークダンス	幸せの黄色いリボン ローズ・オブ・マイハート	みどり会 フォークダンス愛好会	みどり会 フォークダンス愛好会
9	郷土芸能	那須音頭 那須湯もみ唄	郷土芸能を楽しむ会	郷土芸能を楽しむ会
10	剣詩舞	雪　梅	櫻井　煌月	遊月流吟舞会 嘉月会
11	合吟	東照公遺訓	吟詠：田中竜真 君島竜勇	詩歌吟詠 竜真流
12	舞踊	深川情話	泉　喜和乃	泉流和富会

NO	種目	曲目	出演者	会名
13	郷土芸能	黒羽小唄 那須小唄	郷土芸能を楽しむ会	郷土芸能を楽しむ会
14	フォークダンス	シチリアーノ ヴァルス・フロン・ヴィノン	みどり会 フォークダンス愛好会	みどり会 フォークダンス愛好会
15	剣舞	金剛山	田中　風月 藤田　晴月 高瀬　蒼月	遊月流 遊月会
16	舞踊	京都白川おんな川	鈴木　圭子	泉流和富会
17	舞踊	竜馬残影	小野　俊子	藤扇流 雅宴会
18	舞踊	長唄　汐汲	花柳　楓乃	喜乃治会
19	舞踊	清元　北州	花柳　喜乃美陽	喜乃治会
20	舞踊	長唄　賤苧環	花柳　喜乃治	喜乃治会
21	吟舞	九月十三夜陣中の作	吟詠：君島竜勇 剣舞：田中風月	詩歌吟詠 竜真流
22	郷土芸能	与一音頭	全　員	郷土芸能を楽しむ会

宝生流謡曲（うたい）
大田原宝友会
令和五年度のあゆみ

大田原宝友会　蜂巣　貞美

今年度の活動は下表のとおりです。

その他に稽古は月二回水曜日に不定日にて一時半から行っています。

会員が今年度、二人増えて八名になり、参加出演のあとの食事会や稽古の前の食事会も実施でき、なごやかで楽しい会になってきました。

また、会員の皆様の力がついてきましたので初めて宝生流東京能楽堂でご指導いただいている前田尚廣先生の会の発表会で全員が出演することができました。謡曲は奥が深く、私は三十年以上続けていますが、まだまだ納得していません。それがうたいの魅力でもあります。

年を重ねても日々新しく永く続けられるということは難しいからだと思います。

六五〇年もの間、親から子へ子から孫へ、また、師匠から弟子へと一度も絶えることなく、伝え続けている演劇、歌舞は、世界中でも日本の能や狂言が唯一であります。ヨーロッパの歌劇、オペラなどは能の歴史の半分もないと思います。

能は、ユネスコの第一回の『人類の口承遺産の傑作の宣言』世界無形遺産に指定されています。

月日	内容（場所）
4月23日	栃木県宝生流大会 （栃木県総合文化センター）
9月2日	能楽観賞 （宇都宮市文化会館）
10月1日	東京能楽堂に出演 （東京宝生流能楽堂）
10月22日	三島地区コミュニティ祭 （那須塩原市三島ホール）
11月19日	県芸術祭謡曲大会 （栃木県総合文化センター）
11月19日	那須地区芸術祭謡曲 （上記と重なり欠席）

能とは

能は演劇で、物語はおよそ二五〇話あります。時代に対応しながらもその基本の形をほとんど変えずに現代まで伝承されている世界で一番古い舞台芸術です。主人公であるシテの役柄によって大きく五つに分類されています。

初番目物（脇能物）神様がシテ

二番目物（修羅物）戦で修羅道におちた武将の亡霊がシテ

三番目物（鬘　物）源氏物語などのヒロインや、草木の精などの女がシテ

四番目物（雑　能）他の分類に属さない能で、狂女や唐人などがシテ

五番目物（切　能）主に人間以外の鬼や天狗、妖精などがシテ

狂言とは

狂言には、「本狂言」と「間狂言」があります。

「本狂言」は、庶民性・喜劇性をもち、名もない庶民の哀歌を描き、庶民の目線で物事を見、風刺にあふれたものが多くなっています。当時の庶民の日常生活を軸に、当時の世相が反映されていますので、時を経た現代においても親しみやすく、分かりやすいものとなっています。

「間狂言」は、人物の紹介や舞台の展開を説明し、面白おかしくストーリーを盛り立てる役割として活躍します。

盆栽園芸部門

盆栽・園芸部長　平山　正彦

令和五年度の盆栽園芸部門の活動は、新型コロナウイルス感染症が収束しないものの感染が下火になったことで社会活動が復活してきたことを踏まえて事業計画に基づいて活動を行った。

一月二十八日に総合文化会館で十六名が出席して総会を開催した。二月九日に東京都美術館で開催された第九十七回国風盆栽展（前期）見学を十名が参加して実施した。前期展には二名の会員が見事入選を果たした。

七月には、大田原盆栽勉強会との共催による夏季盆栽展を那須野が原公園で実施した。会期は七月七日（金）から九日（日）までの三日間、支部会員十八席、勉強会一席の計十九席で開催した。出展内容は、愛好者が多い那須五葉松が一番多かったが、緑のヤマモミジなどの雑木類、竹や花物などの草物盆栽の席飾りも夏の盆栽展らしさを発揮していた。

十一月三日にコロナ禍で中止していた研修旅行を十三名が参加して仙台方面へ実施した。七時三十分に美原公園を出発し一路東北道を仙台方面へ向かい、仙台市の場外市場の「杜の市場」で昼食と買い物を楽しみ、次の目的地の盆栽展を開催していた華正園を訪問した。展示品を見学した後、気に入った即売品の盆栽を購入し帰路に着いた。久し振りの研修旅行で参加者が少なかったが、天候にも恵まれ会員相互の親睦と盆栽見学の目的が図られた楽しい一日だった。

今年度の最終活動の第五十六回那須支部盆栽展を十二月八日（金）から十日（日）までの三日間、那須野が原公園緑の相談所展示室で開催した。

出展内容は、これまで多かった大物盆栽の出展が三席と少なくなり、代わって中品盆栽が十一席、小品盆栽が四席であった。この傾向は会員の高齢化により重くて一人では運べない大物盆栽が敬遠され、運び易い中品、小品に移っていくことが顕著である。また樹種は、五葉松が五席と一番多く、葉を落とした山もみじやかりんなどの雑木類や実を付けたピラカンサなどがこの季節感を醸し出していた。

下野新聞に開催記事が掲載されたことで、栃木や真岡方面からの来場者もあり、また冬季の盆栽展であったが三日間暖かな日和だったことで三百二十人余の沢山の来場者があった。

終わりに、那須支部は高齢化により脱会、亡くなるなどで減少傾向にある中で、三名の新入会員があったのが、今年度の朗報となった。

国風盆栽展会場

国風盆栽展見学参加者

夏季盆栽展

仙台方面研修旅行

研修旅行参加者

藤井　八冠

大田原市将棋愛好会

矢板　清勝

令和五年三月に将棋の第七十二期ＡＬＳＯＫ杯王将戦七番勝負で初防衛を果たした藤井聡太王将は、第七局の開催予定地だった大田原市黒羽向町のホテル花月で地元の子ども十二人と多面指しでの指導対局をした。指導対局を進める藤井王将に対し子どもたちは緊張しながら一生懸命の一手を考えていた。大田原中学校二年大槻祐太さん（14）は「いつの間にか詰んでいてすごいと思った貴重な体験ができて楽しかった」と話していた。

藤井聡太七冠（21）竜王・名人・王位・叡王・棋王・王将・棋聖は十月十一日京都市で指された第七十一期王座戦五番勝負第四局で永瀬拓矢王座（31）を破り三勝一敗で王座を奪取し八冠となった。二〇一七年に十四歳の中学生でプロとなった若き王者がわずか七年で棋界の頂点に駆け上がった。

将棋の八大タイトル独占を果たした藤井聡太八冠に内閣総理大臣顕彰を授与する顕彰式が令和五年十一月十三日、首相公邸で開かれた。将棋界では七大タイトル時代に七冠制覇を達成した羽生善治会長以来二人目となった。

令和六年一月七日、八日には、ホテル花月で第七十三期ＡＬＳＯＫ杯王将戦七番勝負第一局が開催され、市内の将棋ファンは藤井聡太王将と菅井竜也八段の対局を楽しんだ。

令和５年３月　指導対局

令和６年１月　大盤解説会

大田原囲碁愛好会

大田原囲碁愛好会会長

郡司　敏夫

新型コロナウイルス禍が終息しつつ日常が戻って来ている中、令和五年十月一日大田原西地区公民館に於いて第七十五回那須地区芸術祭「囲碁部門」の大会が行われました。本大会は大田原囲碁愛好会が大会事務局となり設営をいたしました。日本棋院県北支部と北部愛好会に参加を募りました。

参加チームは○那須支部○黒磯支部○西那須支部○塩原愛好会○大田原愛好会○湯津上・黒羽愛好会の六チームで、団体戦（六×三名）、個人戦（六×三名内二名欠席）合計三十四名団体戦は総当たり五回戦対局、個人戦は総当たりリーグ戦で行われました。

団体戦優勝は黒磯チーム、個人戦優勝は益子邦久（那須）さんでした。五戦中全勝者（団体戦のみ）には最優秀者として昇段が認められ、全勝者は佐藤雄一（塩原）さんで現八段から九段に昇段しました。

大田原囲碁愛好会はクラブとして特定の拠点は持っておりませんが大田原美原ほほえみセンターで「幽玄囲碁会」のもと毎週水曜日・土曜日（第一・第三）午後一時から行われています。

囲碁愛好者には還暦・古希・八十路を過ぎた人が多く若い人の参加者を求めています。囲碁は知力・気力・認知能力の保持にはとても良いそうです。

令和六年一月に「第七十三期ＡＬＳＯＫ杯王将戦七番勝負第一局」、秋には「全国将棋サミット二〇二四」が本市にて開催され注目を集めています。囲碁界に於いてもこのようなイベントが行われると県北囲碁発展の礎になるのではないかと思います。

大田原文化協会事務局より

(1)文化協会事業報告

令和5年
4月25日　理事会（総合文化会館）
5月31日　評議員会（総合文化会館）
7月7日～9日　夏季盆栽展（那須野が原公園）
9月20日　会報編集会議（大田原市役所）
10月8日　茶席（黒羽・川西地区公民館）
10月8日　短歌会（西那須野公民館）
11月10日～12日　美術展（ハーモニーホール）
12月3日　歳末助け合い市民芸能大会（ハーモニーホール）
12月8日～10日　盆栽展（那須野が原公園）
令和6年
1月20日　県文化振興大会（真岡市民会館）
1月22日　会報編集会議
※書面にて開催
2月29日　会報編集会議（総合文化会館）
3月18日　会報編集会議
※書面にて開催

(2)会員加入状況

大田原文化協会の令和6年2月末日現在の会員数は30団体で316名となっています。

(3)各部事業費の配分について

専門部	納入者数（A）	納入金額（A×500円）	配分額（A×800円）
文芸	64	32,000	51,200
美術	147	73,500	117,600
ステージ	66	33,000	52,800
囲碁・将棋	6	3,000	4,800
盆栽・園芸	30	15,000	24,000
茶道	3	1,500	2,400
合計	316	158,000	252,800

(4)役員名簿

大田原文化協会　令和５年度役員一覧

No.	役　職	氏　名	専門部	構成部門
1	会　長	田　中　和　夫	ステージ	吟　　詠
2	副会長	安　達　信　悟	美　　術	彫　　刻
3	〃	矢　板　清　勝	囲碁・将棋	将　　棋
4	〃	藤　沼　久　子	文　　芸	短　　歌
5	〃	平　山　正　彦	盆栽・園芸	盆　　栽
6	会　計	望　月　洋　子	ステージ	三　味　線
7	〃	丸　山　昭　喜	美　　術	陶　　芸
8	理　事	川　上　鳴　石	美　　術	書　　道
9	〃	金　沢　裕　司	美　　術	写　　真
１０	〃	花　柳　喜乃治	ステージ	日　　舞
１１	〃	瀬　尾　清　子	茶　　道	茶　　道
１２	〃	瀧　澤　年　子	美　　術	水　彩　画
１３	〃	井　出　　賢	美　　術	竹　工　芸
１４	監　事	西　川　しず子	ステージ	日　　舞
１５	〃	蜂　巣　貞　美	美　　術	洋　　画

専門部

専門部	役　職	氏　名	構　成　部　門
文芸部	部　長 副部長	藤沼久子 中山逍遥	短歌 俳句
美術部	部　長	安達信悟	洋画　彫刻　日本画　水彩画 華道　書道　写真 工芸　竹工芸　陶芸
ステージ部	部　長 副部長	花柳喜乃治 望月洋子	吟詠　民舞　演劇 剣詩舞　日舞　邦楽 ダンス　洋舞　洋楽 郷土芸能　コーラス　民謡 民俗芸能　謡曲　新舞踊
囲碁・将棋部	部　長	矢板清勝	囲碁　将棋
盆栽・園芸部	部　長 副部長	平山正彦 伴　敏美	盆栽
茶道部	部　長	瀬尾清子	茶道
広報部	部　長	飯島健司 藤沼久子 越沼てつ子 岩上知子 阿久津正弘 平山正彦	文芸部（俳句） 文芸部（短歌） 美術部（水彩画） 美術部（洋画） 美術部（竹工芸） 盆栽・園芸部（盆栽）

編集後記

広報部長　飯島　健司

令和五年は、新型コロナウイルスの位置づけが、５類に移行し、嬉しい気持ちの反面、感染対策は個人に委ねられて、難しさも残っています。そのような中、徐々に文化・芸術活動も戻って来ているように思います。

さて、新しい年が穏やかに明けたかと思った元日の夕方、能登半島地震が発生しました。次の日には、羽田空港の衝突事故と続いてしまい、お正月が消えたような気がしました。このような状況の中でも、私たちに生きる勇気や希望を与えてくれるのは、文化・芸術です。地震で倒壊した家屋の中から見つかった、将棋の駒を使っての棋王戦はその一例です。

結びに、御多用な中、玉稿をお寄せ頂きました皆様、またお骨折り頂きました文化振興課の皆様に対し、敬意と感謝を申し上げます。この会報が皆様の努力の足跡として、更なるご活躍のきっかけとなることをご祈念いたします。

令和５年度
会報「大田原文化」第 32 号

発行日　令和６年３月 31 日
発行者　大田原文化協会
　　会長　　田中　和夫
編　集　広　報　部
事務局　大田原市教育委員会事務局文化振興課
電　話　0287−23−3129
印　刷　株式会社　松井ピ･テ･オ･印刷